

# リュイユ

## フィンランドの テキスタイル

トウオマス・ソパネン・コレクション



Modern Finnish  
Ryijy Textiles  
from the Tuomas Sopanen  
Collection

January 28-April 16, 2023

The National Museum of Modern Art, Kyoto

開館時間：午前10時～午後6時

※毎週金曜日は午後8時まで(2月3日、2月10日、4月14日を除く)

※入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日

主催 京都国立近代美術館 後援 フィンランド大使館

助成 フィンランド文化財団、スカンジナビア・ニッポン ササカワ財團

2023.1.28(土) — 4.16(日)  
京都国立近代美術館

〔岡崎公園内〕4階コレクション・ギャラリー



「やわらかな色面」を感じさせるリュイユの一番の魅力は、複雑に構成された色彩の表現にあります。ウフラ・ベアタ・シンベリ・アールストロム(1914-1979)は、水彩によるデザイン画をもとに、幾何学的な模様を無数の階調で表現した、リュイユの代表的なデザイナーの一人です。こうした色彩構成は、レーナ・カイサ・ハルメ(b. 1940)の近年の作品のように、ウールのみならず、リネンやヴィスコースなどの異なる質感の素材を用いることで、より複雑な表現へと展開しています。

リュイユは、フィンランドのアイデンティティが表れた織物だと言われます。16世紀にはすでに寝具として用いられていたリュイユの大きな転換点は、1900年パリ万博。画家アクセリ・ガッレン・カッレラ(1865-1931)によってデザインされた『炎』は、フィンランド館を彩り、ロシアからの独立を視野にナショナル・ロマンティシズムの一端を担います。一方、画家のデザインをもとに制作を担ったのは、伝統的な手芸を保存し活かすことを掲げて1879年に設立されたフィンランド手工芸友の会でした。同会は、デザイナーと優秀な織り手との豊かな関係を築いたほか、家庭用の制作キットを作ることで、趣味の良い生活と、自ら作る喜びを広めていきます。

新たなデザインのリュイユは、時代の変化とともに生まれ出され、

1950年代にはガラスや陶芸と同様に、ミラノ・トリエンナーレで受賞を重ねるなど「フィンランド・デザイン」として国際的な評価を高めました。現在では、作家が自ら手がける作品も多く、造形や素材は多様化して表現の幅はより広がりを見せてています。リュイユの歴史は、いわば近代以降のテキスタイル・アートの変遷を凝縮した物語なのです。

- 1\_ イルマ・クッカスヤルヴィ《ファサード》1986年 157×135cm  
Irma KUKKASJÄRVI, *Fasadi (Facade)*, 1986
- 2\_ リトヴァ・プオティラ《赤い塔》1960年 184×151cm  
Ritva PUOTILA, *Punainen torni (Red Tower)*, 1960
- 3\_ レーナ・カイサ・ハルメ《青い夜》2006年 112×104cm  
Leena-Kaisa HALME, *Sininen yö (Blue Night)*, 2006
- 4\_ アクセリ・ガッレン・カッレラ《炎》  
1899年(デザイン)/1983年(再制作) 204×147cm  
Akseli GALLEN-KALLELA, *Licki (Flame)*, Designed 1899 / Woven 1983
- 5\_ エヴァ・ブルンメル《聖靈降臨祭のたき火》1956年 190×130cm  
Eva BRUMMER, *Heilavalkeat (Whitsun Bonfires)*, 1956
- 6\_ マイ・ラヴォネン《小さなリュイユ》2015年 60×60cm  
Maija LAVONEN, *Pikkuryijy (Little ryjy)*, 2015

作品はすべてトッオマス・ソバネン・コレクション  
All works from Collection of Tuomas Sopanen Collection  
Photo: Katja Hagelstam

6

本展では、フィンランド国立博物館と並び称されるリュイユのコレクションとして著名なトゥオマス・ソバネン・コレクションを日本で初めて紹介します。リュイユの歴史を概観できる重要な作品を厳選し、主に1950年代以降に制作された作品約40点を展覧します。

1

#### | 関連イベント |

関連イベントにつきましては、当館HPをご確認ください。

#### | 観覧料 |

一般430(220)円、大学生130(70)円

\*()内は20名以上の団体料金

\*高校生以下、18歳未満および65歳以上、心身に障がいのある方と付添者1名、母子・父子家庭の世帯の方は無料(要証明)

\*新型コロナウィルス感染拡大防止のため、

開館時間・休館日等が変更となる場合があります

ご来館前に当館HPなどで最新情報をご確認ください。

#### | 同時開催の展覧会 |

甲斐莊楠音の全貌—絵画、演劇、映画を越境する個性

2023年2月11日(土)~4月9日(日)

## 京都国立近代美術館

[岡崎公園内]

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

電話:075-761-4111 ホームページ: <https://www.momak.go.jp/>

【交通案内】①京都市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、「岡

崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車徒歩約5分、「東山二条・

岡崎公園口」下車徒歩約10分②地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩約10分

\*当館には駐車場がございません。近隣の有料駐車施設をご利用ください。

\*岡崎公園駐車場をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台につき1回)を受けられま

すので駐車券をお持ちの上お越しください。

